

編 集 後 記

先般、「発達生物学」の研究者の講演を拝聴する機会があった。次世代につながる生命科学の一端に触れ感動を覚えた。そういったこともあり、生涯教育講座の「胎児科学をめざして」は興味深く拝読した。我々臨床家は往々にして完成した器官を対象として診療を行うが、背景にある発生から機能分化、更には将来的な疾病との関わりにも思いをはせるべきと感じた。「ポリファーマシーの現状と問題点」は高齢者医療に携わるすべての方に認識していただきたいことである。臨床と研究では、急性脳梗塞の治療、薬剤のみならず血管内治療の進歩は心強い。新生児乳児の摂食嚥下リハビリテーション、最近注目されている医療的ケア児の在宅医療には必須である。摂食嚥下に関連してクエン酸咳テスト、OP法、PAスケールの検討、気道防御能力の評価が、誤嚥性肺炎予防に役立ってほしい。妊産婦死亡の原因で最も多い産科危機的出血、母児とも無事で何より、関連部署の協力のたまものだ。筆者が若かりし頃、子宮破裂分娩に立ち会って、児の Intact Survival に尽力したことを思い出した。頭蓋内異物、こんなこともあるのか、MRIの事故予防には、慎重を心掛けたい。ラトケのう胞なるものと、中枢性甲状腺機能低下症、若い女性の不定愁訴には内分泌異常を念頭に置いた診察が必要と認識した。

ご投稿いただいた諸先生に感謝致します。

寝不足、半端ない今日この頃です。

(HA)

島根医学編集委員

児玉和夫，貴谷 光，秦 公平，浅野博雄，沖田旺治，
齊藤洋司，佐藤比登美，小林祥泰，井川幹夫，中島健二，
小阪真二

島 根 医 学

平成30年3月31日発行

発行者	島 根 県 医 師 会
	出雲市湖陵町
編 集	編集者 児玉和夫
発行所	松江市学園南2丁目3番11号 有限会社 松陽印刷所